

# 坂の上の雲ミュージアム

SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM



## ごあいさつ

坂の上の雲ミュージアムは、平成19年4月に『坂の上の雲』のまちづくりの中核施設として誕生しました。松山市は、まち全体を屋根のない博物館とするフィールドミュージアム構想のもと、回遊性の高い物語のあるまちを目指しています。

小説『坂の上の雲』には、近代国家の形成期の世界や日本で起きた出来事、そのなかで生きた人びとの人生など多くの物語が描かれ、現代を生きる私たちに大きな示唆を与えてくれます。本ミュージアムでは、これらをテーマにした展示や様々な催しをおこなうことで、訪れた方々に歴史を学び、未来への思索を深めていただきたいと思います。

坂の上の雲ミュージアム

## 小説『坂の上の雲』

司馬遼太郎さんが40代のほぼすべてを費やして完成させた作品。松山出身の正岡子規、秋山好古、真之の兄弟を中心に多くの人物を登場させながら近代国家をめざす明治の日本が描かれています。初めての国民意識のなかで一定の資格さえ取れば博士にも官吏にも軍人にもなることができた時代、子規は新聞記者となり、近代俳句、短歌、文章の革新に力を注ぎます。一方、好古は陸軍で草創期の騎兵を育て、真之は海軍における近代戦術の基礎を確立、ともに日露戦争が勃発する激動期を駆け抜けていきます。司馬さんはこの長編について「ばくぜんとした主題は日本人とはなにかということであり、それも、この作品の登場人物たちがおかれている条件下で考えてみたかった」と書いています。今の時代を生きる我々に多くの示唆を与えてくれるでしょう。

産経新聞夕刊連載(1968年4月22日～1972年8月4日)文藝春秋刊



しばりょうたろう  
司馬遼太郎

1923年～1996年。大阪市生まれ。大阪外国語学校(現大阪大学外国語学部)蒙古語部卒業。1948年産経新聞社に入社。1960年『泉の城』で第42回直木賞受賞。代表的な作品に『竜馬がゆく』『国盗り物語』『空海の風景』『菜の花の沖』『鞍馬疾風録』など多数。その他に『街道をゆく』『風塵抄』『この国のかたち』などの紀行、エッセイも多い。1993年、文化勲章受章。命日の2月12日は、『菜の花忌』と呼ばれる。

## 坂の上の雲ミュージアム設計にあたって

今回、「坂の上の雲ミュージアム」の計画にあたって最も表現したかったのは、正岡子規、秋山好古・真之兄弟など、司馬遼太郎さんが愛した、自由な心を持ち“公”のために命を懸けた明治の日本人たちの、力に満ちた時代精神です。建物は城山公園と市街地の境界部分に位置し、来館者は三角形を描くスロープでつながれた展示室を、回遊式庭園を楽しむようにあがっていきます。歴史と共に回遊しながら、明治の精神を感じ、一人一人が思索することのできる空間となるよう心がけました。この施設が、多くの人々に愛され、司馬さんの志に恥じない、真の意味での“公”のための文化施設となることを、心から願っています。



あんど ただお  
安藤 忠雄

大阪生まれ。独学で建築を学び、1969年に安藤忠雄建築研究所を設立。代表作に「六甲の集合住宅」、「光の教会」、「FABRICA(ベネトンアートスクール)」、「ピュウリツツァー美術館」、「地中美術館」、「表参道ヒルズ(同潤会青山アパート建替計画)」、「プンタ・デラドガーナ」など。79年「住吉の長屋」で日本建築学会賞、85年アルヴァ・アアルト賞、89年フランス建築アカデミーゴールドメダル、93年日本芸術院賞、95年朝日賞、95年プリツカー賞、96年高松宮殿下記念世界文化賞、02年AIAゴールドメダル、京都賞、03年文化功労者、05年UIA(国際建築家連合)ゴールドメダル、レジオンドヌール勲章(シュヴァリエ)、06年環境保全功労者、10年ジョン・F・ケネディセンター芸術金賞、後藤新平賞、文化勲章、12年リチャード・ノイトラ賞、11年東日本大震災復興構想会議議長代理、「桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金」実行委員長。イェール、コロンビア、ハーバード大学の客員教授歴。97年より東京大学教授、03年より名誉教授。著書に「建築を語る」「連戦連敗」「建築家 安藤忠雄」「仕事を つくる」など。

Photos by 林景澤



展示室 1

日本が近代国家へと歩み始めた明治時代を年表や資料、映像などで紹介



展示室 2

『坂の上の雲』3人の主人公



展示室 3

このスペースで、小説『坂の上の雲』を軸に、毎年新たなテーマで企画展を開催



**【施設概要】** 設計者 安藤忠雄建築研究所  
建築面積 936.80㎡  
延床面積 3,122.83㎡  
構造規模 鉄筋コンクリート(SRC)造  
地下1階/地上4階建て

**【開館時間】** 午前9時～午後6時30分  
(入館は午後6時まで)

**【休館日】** 月曜日(休日の場合は開館)

**【観覧料】**

一般 400円(320円)  
高齢者 (65歳以上)200円(160円)  
高校生 200円(100円)

※中学生以下は無料  
※( )内は20人以上の団体割引料金  
※2階は無料で観覧できます。

**【アクセス】**

■ JR松山駅から(所要時間10分)  
市内電車(道後温泉行)→大街道下車→徒歩2分

■ 道後温泉から(所要時間10分)  
市内電車全線→大街道下車→徒歩2分

■ 松山空港から(所要時間30分)  
リムジンバス(道後温泉行)→一番町下車→徒歩2分

■ 松山観光港から(所要時間30分)  
リムジンバス(道後温泉行)→一番町下車→徒歩2分

■ 松山自動車道松山インターから(所要時間20分)

**【駐車場について】**

一般来館者用の駐車場を設けておりません。  
公共交通機関または周辺の有料駐車場をご利用ください。  
☑は市営駐車場です。なお、車いす使用者の駐車スペース(5台)は設けておりますので、ご利用の際にはご連絡ください。



坂の上の雲ミュージアム  
SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM

**【お問い合わせ】**  
〒790-0001 愛媛県松山市一番町三丁目20番地  
TEL089-915-2600 FAX089-915-3600  
URL : <http://www.sakanouenokumomuseum.jp/>  
施設運営・管理/四電ビジネス株式会社愛媛支店